

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度 技術情報第13号(普通期水稻の斑点米カメムシ類)について (送付)

普通期水稻の斑点米カメムシ類について、下記のとおりまとめましたので送付します。

### 平成22年度 技術情報第13号

- 1 対象病害虫 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, シラホシカメムシ, アカスジカスミカメ 等)
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 予報内容
  - (1) 発生地域 普通期水稻地帯
  - (2) 発生時期 出穂期以降
  - (3) 発生量 平年並
- 4 予報の根拠
  - (1) 普通期水稻周辺の転作飼料作物や休耕田, 畦畔などのイネ科雑草地ですくい取り調査を8月2～5日に行った結果, 次のとおりであった。
    - ア カメムシ類の発生か所率は75.8% (平年 (過去5か年の平均, 以下同じ) : 84.4%) と平年に比べてやや低かった (第1表)。
    - イ 中程度以上の発生か所の割合は34.7%であった (第2表)。
    - ウ すくい取り調査(捕虫網20回振り)での平均捕獲虫数は14.3頭 (平年: 21.5頭) で, 平年より少なかった (第3表)。
    - エ カメムシ類の種類別発生量は, アカスジカスミカメが最も多く, 次いでクモヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, シラホシカメムシの順であった (第3表)。
  - (2) 向こう1か月の天候予報では, 九州南部の平均気温は高く, 平年と同様に晴れの日が多いと予想されており(鹿児島地方气象台 8月6日発表), 水田における出穂期以降のカメムシ類の加害活動及び増殖に好適な条件が見込まれる。
- 5 防除上注意すべき事項
  - (1) カメムシによる斑点米の混入は米の検査等級格下げにつながり, 品質低下の主要な要因となっている。
  - (2) 水田周辺の雑草地などが飛来源となるので, 出穂10日前頃までに畦畔雑草の草払いなどのほ場管理に努める。
  - (3) 出穂が早いほ場では集中的に被害を受ける恐れがあるので, 特に注意する。
  - (4) 航空防除等により広域一斉防除が行われた地域においても, 乳熟期以降の発生に注意し, 発生が多い場合は補完防除を行う。
  - (5) 一般防除地域での防除は穂揃期に行い, その後の発生状況にも十分注意する。なお, 防除後も発生が多い場合は, 穂揃期とその7～10日後の2回散布とし, 時期を失しないよう行う。
  - (6) 農薬の使用基準を遵守し, 薬剤散布にあたっては飛散に十分注意する。

(参考資料)

**第1表 普通期水稻出穂前の周辺イネ科雑草における斑点米カメムシ類の発生状況(7月下旬～8月上旬)**

調査年	2005	2006	2007	2008	2009	本年	平年 <sup>2)</sup>
調査か所数	124	124	124	124	124	124	121
発生か所率(%) <sup>1)</sup>	91.1	91.9	91.9	66.1	81.5	75.8	84.5

※ 1) 発生か所率(%) =  $\frac{\text{発生か所数}}{\text{調査か所数}} \times 100$

2) 平年は過去5年(2005～2009年)の平均。

**第2表 普通期水稻出穂前の周辺イネ科雑草における斑点米カメムシ類の地域別、発生程度別割合**

(2010.8.2～8.5調査)

地域	調査か所数	発生か所率(%)	発生程度別割合(%)				
			甚	多	中	少	無
南薩	20	65.0	0	10	20	35	35
北薩平坦	48	77.1	8	6	19	44	23
北薩山間	44	72.7	2	9	18	43	27
大隅	12	100.0	8	17	42	33	0
県全体	124	75.8	4.8	8.9	21.0	41.1	24.2

※ 発生程度別基準(捕虫網20回振りすくい取り虫数)

調査場所	発生程度				
	甚	多	中	少	無
雑草地等	61頭以上	31～60頭	11～30頭	1～10頭	0頭

**第3表 普通期水稻出穂前の周辺イネ科雑草における斑点米カメムシ類の種類別、地域別発生状況**

(2010.8.2～8.5調査)

地域	調査か所数	項目	クモハリ	ホソハリ	ミミアオ	シラホシ	イネ	アスジ <sup>6)</sup>	合計	
			カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カスミカメ		
南薩	20	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	3.9	0.5	0.05	0.3	0.6	3.7	9.0	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	40.0	35.0	5.0	15.0	20.0	45.0	65.0	
北薩平坦	48	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	0.8	1.5	0.02	0.4	0.0	16.6	19.4	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	25.0	37.5	2.0	31.3	0.0	52.1	77.1	
北薩山間	44	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	0.8	1.4	0	0.1	0.0	7.6	10.0	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	22.7	38.6	0.0	9.1	0.0	50.0	72.7	
大隅	12	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	4.4	0.3	0.0	0.1	0.0	14.6	19.4	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	58.3	16.7	0.0	8.3	0.0	100.0	100.0	
県全体	124	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	1.7	1.2	0.02	0.2	0.1	11.1	14.3	
		種別構成比(%) <sup>3)</sup>	11.6	8.4	0.1	1.7	0.7	77.6	100	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	29.8	35.5	1.6	18.5	3.2	54.8	75.8	
		平年 <sup>4)</sup>	2.2	3.8	0.02	0.7	0.1	14.8	21.5	
		2009年	2.5	1.8	0.1	0.5	0.05	8.5	13.3	
		2008年	0.6	2.6	0.0	0.5	0.0	5.0	8.7	
		平均捕獲虫数	2007年	2.8	4.7	0.0	0.6	0.3	17.6	25.9
			2006年	4.7	6.1	0.0	1.4	0.1	32.3	44.6
			2005年	0.3	3.6	0.0	0.5	0	10.7	15.1

※ 1) 平均捕獲虫数 =  $\frac{\text{総捕獲虫数}}{\text{調査か所数}}$  2) 発生か所率(%) =  $\frac{\text{発生か所数}}{\text{調査か所数}} \times 100$  3) 種別構成比(%) =  $\frac{\text{捕獲虫数}}{\text{総捕獲虫数}} \times 100$

4) 平年は過去5年(2005～2009年)の平均。